

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>上位目標：</p> <p>トウア・ティエン・フエ省（以下、フエ省）及び近隣 2 省における出産可能年齢の女性及び妊産婦から中高年までの女性の生涯にわたる健康の向上，質の良いリプロダクティブヘルス（RH）サービスの提供とモデルづくり。</p> <p>第 1 年次は、モデルとなる RH サービスを提供する女性健康センター（WHC）の建設、コミュニケーションレベルの助産師の研修、それを実施する指導者の養成研修が主な活動であった。加えて、農村・遠隔地でのアウトリーチ（出張）・サービスや健康教育等を行いつつプロジェクトの周知をはかり、第 2 年次以降の活動のための準備を進めた。3 カ年の活動を通した上位目標達成の基盤となる第 1 年次の事業目標は概ね達成した。</p>
(2) 事業内容	<p>第 1 年次の事業計画にしたがい、2015 年（平成 27 年）3 月 15 日～2016 年（平成 28 年）3 月 14 日までに実施された事業内容と経過は以下の通り。</p> <p>(ア) 「女性健康センター」(WHC) の建設、RH サービスの開始</p> <p>2016 年 2 月、フエ省人民委員会から無償で提供されたフエ市の新都市計画地域の一画に、WHC が完成し、予定していた医療資機材の整備が完了した。2016 年 3 月 1 日に、WHC 開所式を開催し、保健省副大臣、在ベトナム日本大使館、フエ省人民委員会、省保健局、フエ中央病院、医科大学付属病院等の関係機関から計 118 名の参加が得られた。保健省副大臣からは、女性に寄り添う優しく質のよい RH サービス提供におけるベトナムのモデルとなるよう期待が寄せられた。（別添 2. WHC 開所式典・年次会合報告概要 参照）現地協力機関であるベトナム助産師会の協力の下、保健スタッフが配置され、WHC での包括的 RH サービスを提供する準備が整い、一部サービスの提供を開始した。1 年次の開始を目指していた正常分娩サービスは、液状廃棄物処理施設の建設を 2 年次開始と同時に行うことになり、処理施設の建設後に開始する。</p> <p>(イ) オリエンテーション・ミーティング（プロジェクト開始会合）の開催</p> <p>2015 年 4 月 22 日、現地協力団体であるベトナム助産師会と共に、プロジェクト開始のオリエンテーション・ミーティングを開催した。現地関係機関より計 92 名の参加を得て、プロジェクトの目的や活動などの概要を共有した。本会合の開催により、プロジェクト対象地域が抱える問題と、プロジェクトが取り組む活動への理解が深まり、活動実施に必要な協力体制を整えることができた。</p> <p>(ウ) 指導者研修の実施</p> <p>2015 年 5 月に対象地域の省・郡病院等に勤務する医師・助産師の計 20 名に対する指導者研修を実施した。研修修了者は、プロジェクトで実施する農村・遠隔地の助産師の研修で講師としての役割を果たすとともに、継続的に農村・遠隔地の助産師の指導にあたる人材である。また、各勤務先の施設においてもサービスの改善を行う指導者としての役割を担う。研修にはベトナム保健省、日本助産師会、ジョイセフから講師を招き、村の助産師への効果的な指導技術や現場での具体的な指導方法を、ケーススタディやロールプレイの手法を活用して実践的な指導を行った。</p> <p>研修内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 助産技術、早期新生児ケアとその指導技術 ② 更年期ケア、思春期ケア、カウンセリング技術、女性の人権と尊厳に配慮した妊産婦ケアのための「患者に寄り添うサービス（クライアントフ

レンドリーサービス)」の意識づくりや具体的実践、③医療環境の維持改善の手法としての 5S (整理、整頓、清掃、清潔、習慣) など

(エ) 助産師研修の実施

6月と8月に農村・遠隔地のコミュニケーションヘルスセンター (CHC: 村の保健所) で勤務する助産師を対象に、2週間の助産師研修を計2回、合計39名に対して実施した。本研修は助産技術・早期新生児ケアを含む、包括的なRHサービスの知識や技能、新しい知識や技術の習得を目的とし、講義の他、グループワーク、ロールプレイ、モデルを使用した演習、病院実習、実技試験を行った。本研修は、5月に指導者研修を受講した講師を中心に、フエ省保健局、フエ中央病院、フエ医科大学、RHセンター、ベトナム助産師会、日本助産師会からの講師の協力により実施した。

研修内容: 助産技術・早期新生児ケア、思春期女性へのケア、出産後の女性のためのメンタルヘルスケア、更年期ケア、カウンセリング技術、クライアントフレンドリーサービス、乳がん・子宮がん検診、胎児・新生児スクリーニング検査、安全な中絶、など

(オ) WHC スタッフ研修の実施

包括的なRHサービスを提供する施設としてWHCが、施設・技術・接遇すべてで模範となれるよう、以下の通り、WHCスタッフへの研修を実施した。

①更年期ケア、産褥期のメンタルヘルスケア講義の実施

2015年6月、日本助産師会専門家の協力を得て、WHCスタッフ計13名に対して実施した。

②乳房ケア研修の実施

2015年10月、WHCで勤務するスタッフ6名に対して乳房ケアの研修を実施した。講師は、JICAがゲアン省で実施したRHプロジェクトの本邦研修(7か月間)で乳房ケア技術を習得した助産師に依頼した。研修内容は、産後の乳房ケアについての講義、モデル演習、病院実習である。(別添3. 乳房ケア研修報告概要 参照)

③分娩ケア研修の実施

2016年1月には、正常分娩介助技術の再研修を実施した。研修はWHCで勤務する産婦人科医、助産師計3名を対象とし、フエ中央病院産婦人科の協力を得て、約2週間にわたり行った。分娩介助ケアの研修に加え、妊婦健診では産婦人科医の指導の下、診断やリスク判定などの技術の向上を図った。(別添4. 分娩ケア研修報告概要 参照)

(ア) 地域へのアウトリーチ・サービス

9月中旬から農村・遠隔地へのWHC保健スタッフによるアウトリーチ・サービスを計16村で実施した。計2541名の女性に超音波健診、婦人科健診、カウンセリングサービスを届けた。同時に健康教育等の啓発活動を計4村において実施した。(別添5. アウトリーチ・サービス、健康教育報告概要 参照)

(イ) 住民のRH知識に関する聞き取り調査の実施

7月から8月にかけて、フエ省、クワンチ省の対象郡の20コミュニティで、農村・遠隔地の女性のRH知識に関する聞き取り調査を実施した。現在妊娠中もしくは1歳以下の子供を持つ女性を対象に、啓発活動を実施する16村の計306名に対して聞き取りを行った。調査結果から、農村・遠隔地の女性のRHに関する知識は、まだ十分ではないといえる状況が確認された。また、地域においては平野部農村よりも少数民族の多い山岳地でRH知識に関する理解

	<p>が遅れていることが確認された。</p> <p>(ク) <u>プロジェクト年次会合の実施</u></p> <p>2016年3月1日、WHC開所式にあわせて、同日、対象地域の保健関係者やベトナム助産師会支部長等を迎え、活動実施に必要な協力体制の強化と持続発展を目的としたプロジェクト年次会合を開催した。1年次の活動の成果報告・2年次の活動計画を共有し、必要な協議を行った。(別添2. WHC開所式典・年次会合報告概要 参照)</p>
(3) 達成された成果	<p>1年次に計画していたプロジェクト活動は全体を通して順調に実施することができ、女性の生涯にわたる健康を向上するための、包括的RHサービスを提供する基礎ができた。「期待される成果」ごとのまとめは以下の通り。</p> <p>成果1. <u>女性の生涯にわたる健康を向上するための包括的RHケアサービス提供の整備の完了</u></p> <p>WHCの建設が終了し、予定していた医療資機材の整備が完了し、センター内の研修施設も整った。WHCは、第2年次から助産師研修をはじめとする各種研修拠点としても機能していく。1年次の研修はセンター建設中のため、外部会場で実施したが、今後は、センターの研修室を使った研修が可能となる。</p> <p>包括的RHサービスのモデルを示せるよう、WHCスタッフへの研修も実施した。内容は、乳房ケア、更年期ケア、分娩ケアで、それぞれの分野での技能の向上を図った。WHCスタッフ対象の乳房ケア研修の病院実習中には、モデルとなってケアを受けるために退院を延ばした女性がでるほどで、母乳がスムーズに出るようになり涙を流す女性もいた。母乳栄養や新生児へのケアに困難や苦痛を感じていた産後間もない女性にとって、個別に専門的な乳房ケアやカウンセリングを受けられることで、安心感や大きな喜びにもつながることを、研修者自身が実感することができた。妊産婦のニーズに添ったサービスが、妊産婦にも喜ばれることが確認できた。</p> <p>連携病院との協力・搬送体制については、ベトナム保健省、対象省の保健局等関係機関との協議を重ね、2016年2月29日に、ベトナム保健副大臣、保健省母子保健局代表等の参加のもと、関係機関で合意したことで、緊急時の受け入れ体制が整った。</p> <p>成果2. <u>WHCによる遠隔地への定期的なアウトリーチ・サービスの提供</u></p> <p>今期、WHCスタッフによる農村・遠隔地へのアウトリーチ(出張診療・健診)サービスを開始し、計16か所の村で実施した。計2,541名の女性に対し、普段は受けることのできない質のよいサービス、超音波健診、婦人科健診、カウンセリングサービスを届けることができた。RHサービスを受けた女性からは「普段受けられないサービスが無料で受けられて嬉しい」などのコメントが聞かれた。午前に検査を受けた女性が、午後に再度訪れ、さらに専門的なカウンセリングを希望するケースもみられた。</p> <p>成果3. <u>プロジェクト地域内遠隔地域で働く助産師の知識と技術の向上</u></p> <p>プロジェクトでは、3年間でおよそ240名の対象コミュニティで勤務する助産師への研修を実施するために、上位医療機関の指導的立場にある助産師に指導者研修を実施し、それぞれが下位のコミュニティヘルスセンターで働く助産師に研修を実施できるよう計画した。</p>

①指導者研修 (TOT) :

コミュニケーションレベルの助産師対象の研修を実施できる指導者 20 名を養成した。助産技術・早期新生児ケア・包括的 RH サービスにおける指導技術ならびに専門知識、技術の向上を図った。参加者全員が厳格な終了試験を通過して、保健省母子保健局公認の指導者としての資格を取得することができた。指導者としての自覚と技術・知識が向上したのみならず、TOT 全体を通して、積極的な意見交換や議論がかわされ、また、省・郡レベルの現場やコミュニケーションでの実例紹介や経験の共有ができたことで、各省や郡を超えた指導者同士の連帯を図ることができた。

②助産師研修 :

対象 3 省 15 郡の農村・遠隔地で勤務するコミュニケーションレベルの助産師に対して、上記 TOT の受講者が中心となって講師を担い計 2 回、39 名の助産師を対象に研修を実施した。参加した助産師の知識・技術・意欲に、目覚ましい向上が見られた。保健省の基準にもとづいて実施した事前テストでは 39 人中 38 人が合格ラインに届かなかったが、研修終了後は受講者全員が合格することができた。

研修前後の合格率・正答率 (平均) の比較 (合格ライン : 正答率 75%)

		プリテスト	ポストテスト
第 1 回助産師研修 (フエ省 対象者 19 名)	合格率	5%	100%
	正答率	30%	79%
第 2 回助産師研修 (クワンチ省 対象者 20 名)	合格率	0%	100%
	正答率	21%	88%

研修を通して、助産師の表情や態度から研修の学びによる知識・技術について自信の変化が見られた。研修に同席した保健省、保健局の責任者からは、直接コミュニケーションの女性にサービスを提供する助産師の再研修の重要性について再認識する機会となり、今後のプロジェクト活動への協力についての動機づけとなったとの感想が聞かれた。39 名の助産師がそれぞれのコミュニケーションで提供するサービスの潜在的裨益者は、39 コミュニンの女性の人口 102,000 人であり、助産サービスに限れば、出産可能年齢の女性 52,000 人となる。

成果 4. プロジェクト地域内の遠隔地域の女性の RH に関する知識レベルを把握できた

啓発活動実施前の、対象地域の女性の RH に関する知識レベルを把握するため、対象郡の 20 コミュニンにおいて、現在妊娠中もしくは 1 歳以下の子供を持つ女性を対象に、計 306 名に対して RH 知識に関する聞き取り調査を実施した。聞き取り調査の結果、農村・遠隔地の女性の RH に関する知識は、まだ十分ではないといえる状況や、平野部農村地域よりも少数民族の多い山岳地域で RH 知識に関する理解が遅れていることが確認できた。例えば、妊娠中の危険な兆候に関して全体の約 34% が知らないと回答している。「産前健診 (ANC)」を知っていると答えたのは全体の約 84% であったが、そのうち ANC の目的を理解していたのは全体の約 58% にとどまり、1 回目の ANC の受診時期を回答できた女性の割合も全体の 58% であったことから、妊娠中の RH に関する理解は十分で

	<p>ないことが再確認された。出産直後のハイリスク期間から産後 6 週間の産褥期のケアは、女性と子供の健康に重要な意義を持つが、「産後ケア (PNC)」を知らない女性の割合は全体で 55%であり、特に初回妊娠中の女性では PNC を知らない割合が 77%と高かった。「家族計画」に関しては全体の 93%の女性が知っていると回答したが、家族計画を知らないと回答した女性の割合は、30 代以上より、10 代・20 代が多く (10 代 : 19%、20 代 : 9%、30 代以上 : 1%)、初回妊娠中の女性が経産婦より多い (初回妊娠中の女性 : 37%、経産婦 : 3%) ことから、思春期や初回妊娠の女性によりニーズがあると考えられる。</p> <p>農村・遠隔地の 16 村においてアウトリーチ・サービスを、同時に計 4 村において健康教育を実施した。各回平均 158 名、計 2541 名に提供されたアウトリーチ・サービスにおける診察時の個人カウンセリングや、各回平均 85 名の女性への健康教育により、1 回のアウトリーチ・サービスによって、100 名以上に啓発・健康教育が行われた。参加女性からの質問や反応からも基本的な RH に関する知識が十分でないことが認識された。</p> <p>調査結果は、引き続き地域で実施する健康啓発活動の内容に反映させるとともに、ニーズに基づいた質のよい効果的なサービスにつなげるために活用していく。</p>
(4) 持続発展性	<p>1 年次には WHC を開所し、2 年次からは正常分娩サービスを含む予定しているすべて RH サービスの提供開始を予定している。WHC を中心とした女性に寄り添う包括的な RH サービス提供がモデルとして認知されるべく、安全で質のよい RH サービスを展開していく。WHC の運営管理については、保健医療サービスを中心とした WHC の運営は基本的にクリニックの経営実績を有す VAM が主体的に取り組むが、プロジェクト期間中は、ジョイセフが協力して管理を行う。アウトリーチ・サービスや健康教育の実施は、プロジェクト開始前より VAM が一部の地域で行っていたサービスで、十分な経験をもつ。本プロジェクト活動により、対象地域の拡大とさらなるサービスの質の向上、ニーズに合わせたサービス内容の充実、研修や実地指導等を通じた助産師間のネットワークの強化を図り、VAM のスタッフにより、定期的かつ継続的な実施を目指している。</p> <p>指導者研修、助産師研修の実施においては、プロジェクト開始時より現地協力機関であるベトナム保健省母子保健局や対象省保健局との協議の下、ベトナム保健省からあげられた助産師の再教育の重点課題や現地のニーズに基づいた研修カリキュラムを構築してきた。現場で活躍する助産技術指導者の育成や助産師の質の向上は、ベトナムにおける喫緊の課題であると同時に保健省の意向に一致しており、本事業の活動には保健省からの全面的な理解と支援を得ている。研修室を備え、実習も可能な WHC が、将来的に継続して包括的 RH サービスの拠点として助産師の研修を実施していくには、センターの活動の質が重要であり、本事業によるハード・ソフト両面の支援で質の向上をはかることで、政府の信頼を獲得し、将来的には、政府との共同実施の提案も視野にしている。</p> <p>今後も引き続き、プロジェクト年次会合や VAM の会合等において、プロジェクト活動内容や成果を広く共有し、綿密なコミュニケーションを図り、現地協力機関とのさらなる協力体制や、持続発展を念頭においた連携を構築・強化していく。</p>